

幕末の天才、黒船来航で活躍

四国八十八箇所霊場第76番札所金倉寺に隣り合う新羅神社の境内には、日本を代表する江戸時代後期の儒学者、河田迪齋かわだてきさいの顕彰碑があります。

迪齋は、1806（文化3）年、現在の金蔵寺町で生まれました。8歳から儒学を学び、15歳で伊予小松藩の朱子学者である近藤篤山とくざんに師事。師は京都への留学をすすめました



迪齋没後50年を機に1910（明治43）年に建てられた顕彰碑

が、両親を相次いで失った迪齋は、家計を支えるために地元にとどまります。やがてその才能が認められ、江戸幕府直轄しょうへいざかの昌平坂学問所で学び、1834（天保5）年には著名な儒学者佐藤一斎の養子となり、後に学問所を率いる林家の塾頭となりました。

1853（嘉永6）年、ペリーが浦賀沖に来港すると林家当主の随員として交渉の場に臨み、翻訳や記録を担当。日米和親条約は自ら筆を執って書き上げたといわれています。1859（安政6）年、病に倒れ帰らぬ人となりました。子の河田然よしは東京市の助役として活躍し、孫の河田烈いさおは第二次近衛内閣の大蔵大臣を務めたことで知られています。



- 金蔵寺町1165
- JR金蔵寺駅から徒歩約5分